

私にも 言わせて! 第101回

健康危機を乗り越え、 公衆衛生を実践する

福岡県京築保健福祉環境事務所の田中と申します。私は医学部卒業後、初期臨床研修を経て、公衆衛生大学院に進学しました。その後、福岡県に入職し、県職員として働きながら大学院を修了して現在に至ります。このような経緯に至った理由について冒頭に申し上げてから、現在の業務や今後の展望などについて述べさせていただきます。

大学院での2年間

通常、初期臨床研修を終えると、臨床の後期研修に進み、専門医取得を目指すのが一般的かと思いますが、しかしながら、初期臨床研修中に一度退院した患者さんたちが、数か月後にまた救急車で運ばれてくるという経験を何度か繰り返した時に、高齢者が健康に暮らしていただけるような地域の医療提供体制について学びたいと思うようになりました。その時、学生時代はあまり関心がなかった公衆衛生学のことを思い出しました。この

まま医局に入局して、専門性を磨くことも選択肢の一つだけでも、せっかくならさまざまなことを経験しておこうと思いい、大学院の入学試験を受ける決意をしました。大学院では医療政策学、医療経営学、医療管理学、疫学、統計学といった講義を受講し、地域包括ケアシステムや在宅医療の重要性などを学ぶとともに、認知症にかかる医療費についてレセプトデータを統計解析するという研究を行ってきました。統計解析ソフトの操作は当然初めてでしたが、データの見方を変える貴重な経験

公衆衛生医師としての歩み

県職員1年目より、私は京築保

健福祉環境事務所(京築保健所)総務企画課企画指導係に配属されることになりました。当所が所管する地域は、福岡県の東南部に位置し、管内の人口は18万3000人程度です。配属されるまでこの地域を訪れたことはなく、初めは地理的な感覚がいまま係の業務をこなしていくことになりました。係の業務では主に管内の医師会や病院、消防、市町などの関係機関との会議を調整したり、医療法第25条第1項の規定に基づく立ち入り検査で病院や診療所の現地調査に行ったりしました。また、同時に医師業務として結核接触者健診や特定感染症検査、適正飲酒指導なども実施しました。前者の業務は必ずしも医師としての知識が必要とされるわけではありませんが、適切な医療を提供するために医療機関以外にさまざまな機関が協力する必要があるということ



福岡県京築保健福祉環境事務所
総務企画課企画指導係
技師

田中 伸治

平成28年長崎大学卒業。初期臨床研修の後、九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻(専門職学位課程)へ進む。31年4月より現職。



PCR検査の検体処理の様子

健康危機管理の経験

1年間をあっという間に終え、大学院も修了し、日々の業務にも慣れてきた、そんな時に生じたのが新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大でした。連日、地域住民からの相談対応に追われるようになり、当所管内で1例目の感染者が発生するまでそれほど時間はかかりませんでした。

積極的疫学調査や濃厚接触者の健診などは結核対策に類似する点も多いのですが、当初はウイルスに関する情報が圧倒的に不足して

おり、感染力や潜伏期間等についてまったく手探りの状態でした。それだけでなくPCR検査を十分に提供できず、感染者の受け皿(病床や宿泊療養施設)もほとんどありませんでした。何かをゆっくりに考える時間はなく、目の前の課題を一つ一つ克服していくことで精いっぱいでしたが、管内の病院や医師会の協力のおかげで徐々にPCR検査を拡充し(写真)、第一波を乗り越えることができました。執筆時は第三波の真っただ中ですが、クラスター対策を行いつつながら管内の感染抑制に努めています。

平時と非常時の業務を遂行した中で、日頃から会議等で関係機関が顔を合わせることで信頼関係が構築されていたからこそ、非常事態に対しても円滑に協力して対応できたというところに改めて気付きました。保健所は地域の医療提供体制をマネジメントするほか、非常時には健康危機管理の拠点となるという大きな役割を担っていることを再認識しているところです。

これからの役割

「公衆衛生を実践する」と表現す

ると難しく聞こえますが、臨床や行政、研究、その他関係機関など多様なアプローチがあり、それぞれが協力することで集団の健康水準の向上につながっていくことではないかと今は考えています。保健所の立場においては、関係機関の調整役を担うため、地域のことをより深く知り、関係機関との関係性もより深める必要があると感じます。

この原稿を執筆している最中も、新型コロナウイルス感染者が増加し、病床が逼迫しているという報道を毎日のように耳にしています。この危機が収束するのがいつになるのか正確に言える人は誰もいません。しかしながら、ワクチン接種の実施をはじめ、これからやるべきことはたくさんあります。また、昨年は新型コロナウイルス感染症対応だけでなく、大雨による災害や鳥インフルエンザの発生などもあり、今後もいつ新たな健康危機が起こるか分かりません。今の私にできることは多くありませんが、課題を一つずつ乗り越えていき、地域医療に貢献できればと思います。

「期待の若手シリーズ 私にも言わせて!」は、
全国保健所長会ホームページに
バックナンバーが掲載されています。

全国保健所長会 月刊公衆衛生情報 http://www.phcd.jp/update/archive_02_j_koushusei_watashi.html